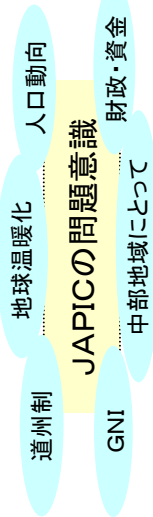
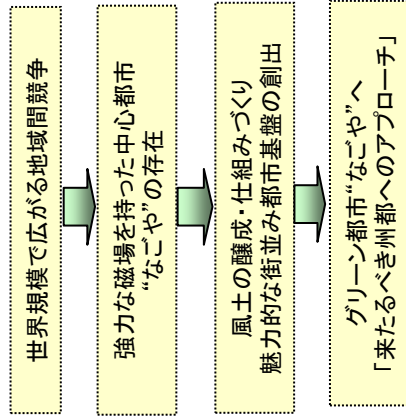


提言：「グリーン都市“なごや”へ・その脱皮戦略」

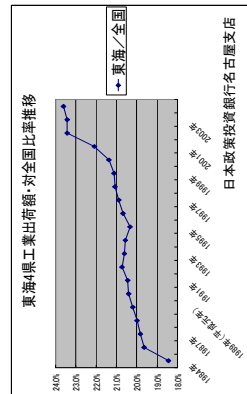
… “来たるべき州都”へのアプローチ…



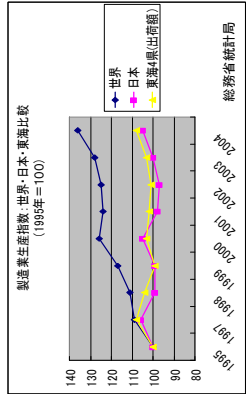
JAPICの問題意識
財政・資金



参考：東海4県の位置づけ



国内的には



世界的視点では

□世界と日本の人口動向からこの差の今後の一層の拡大。
□シェアの低下は存在感の低下さらには求心力低下へつながる恐れ。

強力な磁場を持った中心都市とは

- 広く国内外から、創造性に富む多様な人材を多く集めることができること。
- 多様な人々の交流や地域の人々との触発が活発であること。
- クリエイティブな活動や交流の中から、世界に誇るモノづくり技術と芸術・文化などが融合した**“なごや”**ならではの**新たな価値**(最先端技術やビジネスモデル・サービスなど)が次々と世界に発信されること。

そのためには

- 人を温かく迎え、“なごや”に行けば自分のやりたいうことを実現できると思える雰囲気・風土の醸成。
- 多様な人々が安全に安心して暮らせ・豊かな交流ができる仕組みづくり。
- 世界中の人々が“なごや”を印象的に思い浮かべる魅力的な街並み・都市基盤の創出。

→「グリーン都市“なごや”へ・その脱皮戦略」

JAPICが考える「グリーン都市」とは

- 「グリーンインフラ(緑、水辺、景観など)」が「共有財(コモンズ)」として認識され、行政、市民、企業、NPO、コミュニティなどが一体となって議論し、目標を持って整備が進んでいる。
- 「生活の質(Quality of Life: 真の豊かさ)」という概念の理解・共有が進み、それが保証された魅力的な街区の整備が進んでいる。
- 結果として“コミュニティ”が活性化し、人間性の回復が実感できている。
- 環境負荷の少ないライフスタイルが定着している。

“なごや”の特徴：取り柄と課題

- 堅実で、“名古屋モノロー主義”ともいわれる独立独歩の風土
- モノづくりへのこだわりが結実した経済的繁栄・企業の国際競争力
- 極めて少ない海外からの直接投資
- ビジネス中心の都市構造(ホテルの数、シングルの割合など)
- 環境負荷の極めて大きい都市交通システム
- 万博が残した交流と環境への意識の高まり

グリーンインフラの現況

- 土地区画整理事業でよく整備された反面、歴史的陰影の乏しいといわれる都市構造
- 中心部に大きな河川を持たない稀な都市
- 緑を食い潰して膨張した都市“なごや”

昭和22年(人口79万人) 平成12年(人口217万人)

□H2年からH17年までの15年でゴルフコース約16個分(1600ha)の緑の喪失

JAPICの提案

- 「グリーン都市“なごや”」ブランドデザイン
- 具体的な脱皮戦略：三つの先導プロジェクト

提案1: 南北軸に

- 『堀川を真に“魚の住める川”にして“人が遊べる川”に』
～堀川再生マスタープラン～
- ・10年以内に<A>ランクに
- ・人工干潟による自浄能力の創出



提案3: 2軸の交差点に

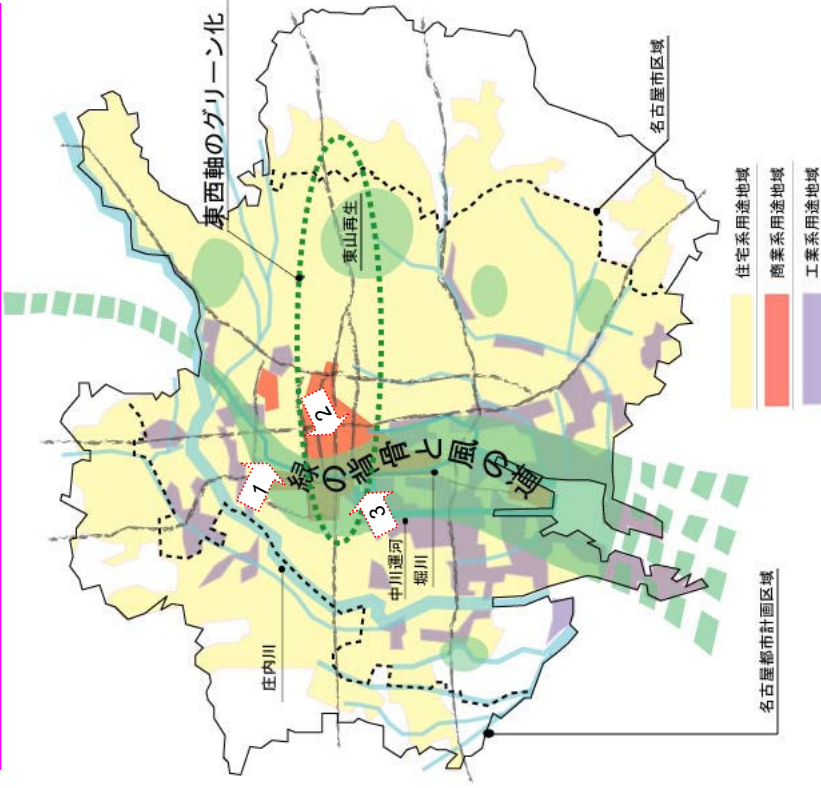
- 『コミュニティに根ざした持続可能な街づくり』
- ・住民主体の水と緑の街づくり
- ・公園、緑地等を「共有財(コモンズ)」と捉えた地域経営
- ・新たな事業スキームの提案



中川運河沿岸地区

「グリーン都市 “なごや”」 グランドデザイン

- ・・・南北に新たな都心軸の形成・・・
- ・・・「緑の背骨と風の道」・・・



提案2: 東西軸に

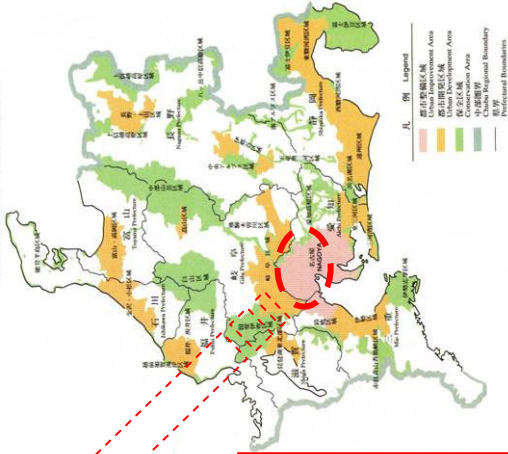
- 『中心市街地への“緑とせせらぎネットワーク”の創出』
- ・都市のコンパクト化や都市交通システムの転換と一体となった中心市街地のうるおい再生



広小路通りへの導入

■中部圏区域図

Area Diagram of Chubu Region



JAPICが「グランドデザイン」で訴えたいこと

- “なごや”が木曾川流域の都市であることの再確認を。“なごや”を考える視野を流域から中部地域全体へ。さらには世界に開かれた都市づくりの議論へ。
- 新たな都心軸“緑の背骨と風の道”を中心として、“来たるべき州都”にふさわしい良質な“グリーンインフラ”の創出を。強い意志と長期的視点。かつ旬な対応を。
- コミュニティに根ざした水と緑の街づくり。そこに惹きつけられる多様な人々の交流と触発が生み出す、“なごや”ならではの新しい価値創造都市への挑戦を。
- “生活の質(GoL)”が保証された魅力的な街区景観の創出とコンパクトな街づくりとの両立。この“なごや”でこそその実現を。
- 堀川・中川運河の再生と“21世紀にふさわしいモノづくり領域(最先端技術、デザイン、文化・芸術、工場再生など)”との融合を。